

2026（令和8）年度花園大学大学院（秋季募集）

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 社会福祉学領域

専門科目

問題1

**【出題意図】**

大学院で社会福祉学を学ぶにあたり、ソーシャルワークに関する基本的な知識を身につけていることは最低条件であると考えます。

そのため、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義を題材にしている。その中でも「人と環境の相互作用」はソーシャルワーカーがクライアントシステムを見つめるときのアセスメントの思考の土台となる視点である。こうしたことへの理解を前提として、「生活課題を抱えた人たちに働きかけるとともに、その人たちを取り巻く環境に働きかける」という機能を理解しているかどうかを問う問題である。

一般的に、対人援助はどうしても個人に対する働きかけをイメージさせるが、ソーシャルワークの特徴は個人と環境の両方に働きかけるところにある。これを理解しているならば、その具体例を挙げながら説明ができると思われる。その理解の有無や程度を評価することを通じて、受験者がソーシャルワークについてどれくらいの知識を持っているかを測ろうとする問題である。

## 問2【出題意図】

大学院で社会福祉学を学ぶにあたり、社会福祉の基本的な課題として位置づけることのできる少子高齢化に関する知見を有していることは、最低限有すべき知識であると考えます。ただし、日本では従来から福祉的な課題として位置づけられてきた少子化や高齢化の問題ではありますが、国際的にみるとその認識は多様な状況であることも事実であるといえます。

そこで、この課題について人口の将来推計（例えば、2040年や2055年など）を念頭に置いたうえで、どのような問題意識を有しているのかについて、本問題はその知見を問うものとなっています。

例えば、日本を例にすると①労働力人口(生産年齢人口)の急減、②年金・医療・介護などの社会保障費の増大(制度の持続性や費用負担に関する世代間の公平性など)、③ ②による国家財政への負荷の増大に伴う国家運営の問題(増税や給付削減などを含む、福祉国家モデルの再編など)、④介護人材不足とケア体制の危機、⑤地方の人口減少と地域消滅の懸念(コミュニティにおける共助の持続性など)、⑥孤立・孤独の増加、⑦更なる出生率の低下と子育て環境の困難化等、多岐にわたる論点が存在します。

このように、さまざまな論点から、自分自身が所属する国／地域に対して、いかなる認識を有しており、どのような政策的視点を有しているのかについて考査することが、必要であると考えたために設定した問いであるといえます。